12月から新しい看護師さんが着任しました！

１２月１日から４ヶ月間、朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師の金田（かねだ）直也（なおや）さんです。金田さんは、看護師をされているお姉さんの影響を受け、自身も看護師を志すようになったそうです。

診療所で働く期間がちょうど冬ということもあり、只見の雪を心配する反面、「どのくらい降るのだろう」という好奇心も大きいとのこと。趣味はスノーボードで、只見スキー場に滑りに行くのが楽しみだそうです。患者さんとの関わりを通じ、成長していきたいと元気に話してくれました。

金田 直也 さん
（出身／会津若松市）

広報ただみ診療所

朝日診療所
所長 若山（わかやま） 隆（たかし）

「新年のご挨拶」

新年あけましておめでとうございます。令和がはじまって最初の年末年始をみなさんいかがお過ごしになりましたか？

年末年始はこれまでを振り返り、思いを新たにする際にとても良い時節です。私自身、２０１９年の朝日診療所での医師としての仕事を振り返ると、反省する点が多いです。辛い症状を抱え、困っている患者さんに、もっと思いやりをもって対応できればよかったと悔やむことが多かったです。その背景として、看護師さんが不足していることから、入院病床が制限されてしまい提供できる医療サービスが減ってしまっていた点があります。患者さんやその家族のご要望やご期待に沿えない場面が多くなっていました。診療所に入院させてほしいという方や、もっと長く入院したいという方がいても、それは困ると言わざるを得ない。そういった期待に沿えないことの対応の積み重ねでストレスがたまり、余裕がなくなってしまったのかもしれません。もちろん、どんな仕事をしていても、ストレスがないなんてことはありません。ストレスがある中で、冷静に、自分がどんな振る舞いをすべきか考え、行動することが必要です。

仕事に対してどう向きあうのか？どのように仕事をしたいか？を考えることは非常に大切だと思います。時には辛い仕事において、自分を導き、前に進める原動力となります。もしわかりにくい場合は、自分が定年退職などで仕事から離れるとき、周囲の人に自分をどのような存在だったと捉えてもらいたいか、を考えるといいと思います。それが自分にとって価値あることであり、本当の働き方改革になると思います。私にとって、朝日診療所で働く上での願いとは、患者さんに「朝日診療所で診てもらってよかったな」と思ってもらうことであり、たとえ大変で辛くとも、そんな診療所に少しでも近づけるべく一日一日精進していきたいと思います。

地域おこし協力隊として Vol.62

移住定住支援協力隊
今関（いまぜき） 真貴（まき）

「只見暮らし」

６月に千葉からやって来てちょうど半年が経ちました。生活をしていく中で、只見には“町や区の行事”がいろいろあるな、と感じています。まず普請、回覧板に「集合５時」と書かれていてびっくり（朝が早い！）、夏の道路愛護奉仕作業では自分たちが使っている道路を自分たちで掃除、きれいになった道を見た時はとても清々しい気持ちになりました。秋の堀払いでは小堀の中を長靴でじゃぶじゃぶ歩いて泥上げ、みんなで自分達が埋まるほど深い大堀にも入りました。川原の草刈りも、道路も、堀も、いつも知らぬ間に誰かがキレイにしてくれていたり、ともすると荒れているとさえ感じることなく生活していたのだということに気がつきました。広い範囲もみんなで作業をするとあっという間にキレイになっていくことへの達成感と、日頃の運動不足でなまった体を動かすことの心地良さ、作業が終わった後のおしゃべりも楽しみのひとつ。作業の他にも、お神輿、おまつり、盆おどり、運動会、文化祭、クリスマス会など、みなさんに温かくお声掛けいただき楽しい只見暮らしを送っています。そして、いよいよ初めての只見の冬、余裕をもって準備を進めながら過ごしていきたいと思っています。